

HANDS

Kokura Memorial Hospital

84

2021



いつもの暮らしに、いつものあなた

小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表) [小倉記念病院](#) [検索](#)

TEL.093-511-2062(医療連携課) FAX.0120-020-027(医療連携課) FAX.093-511-2032(救急室) 夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

「はい」と手を上げる3人の医師は「肺」を治療する呼吸器外科医です。呼吸器外科では原発性肺癌をはじめ、転移性肺腫瘍、良性肺腫瘍、縦隔腫瘍、胸壁腫瘍、気胸嚢胞性肺疾患などの胸部疾患に対する外科治療を行うとともに、肺癌などの悪性腫瘍に対しては手術のみならず、抗癌剤治療や分子標的治療、免疫療法(免疫チェックポイント阻害剤)、放射線治療を含めた集学的治療を行っています。さらに手術は積極的に胸腔鏡手術を行っており、2021年には手術支援ロボット「ダヴィンチ」を用いたロボット手術も導入する予定です。

Best care for the patients

当院の呼吸器外科では、低侵襲手術（胸腔鏡手術）と最近進歩が著しい肺がんに対する薬物療法（分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など）を積極的に取り入れると共に、患者さん一人一人の腫瘍の進行度に合わせて適切な術式を決定し、最適な治療を提供しています。

肺の機能を温存する縮小手術

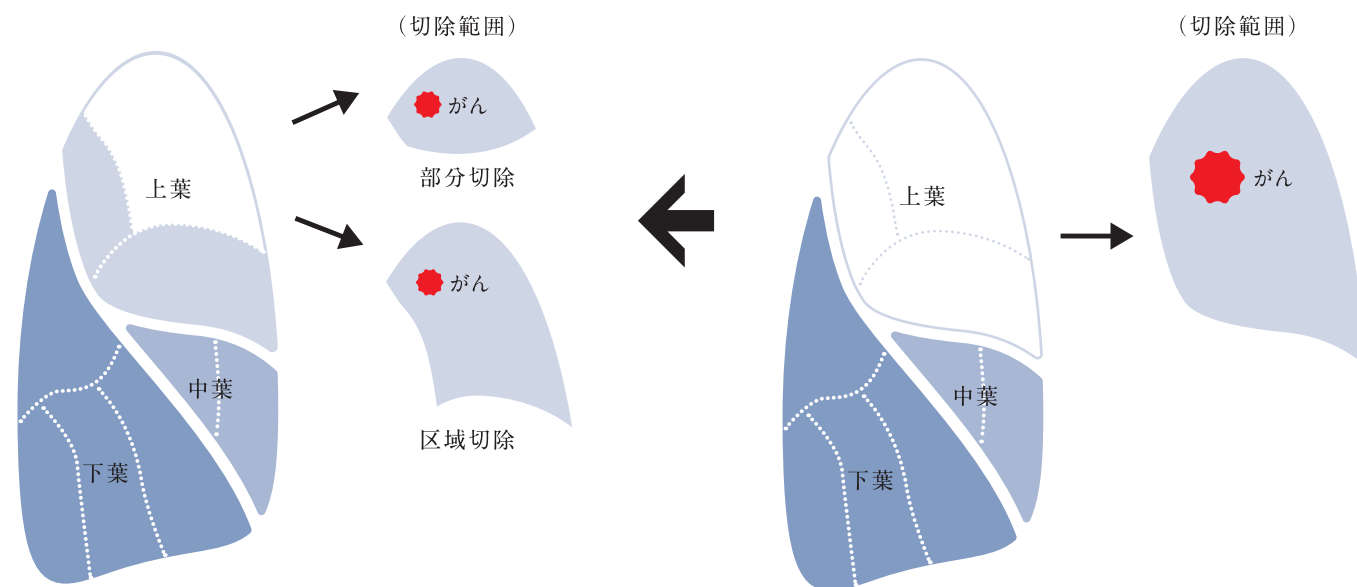
これまでの肺がん手術は、がんがある肺葉と呼ばれる部位を大きく切除するのが標準治療でした。しかし、近年では肺葉全体を切除するのではなく、肺の切除量を縮小する部分切除（肺葉切除の10～30％程度の切除）や区域切除（肺葉切除の20～50％程度の切除）の縮小手術が行われています。しかし、縮小手術特に区域切除は細かい血管や気管支を扱う必要があるので、標準的な肺葉切除に比較して難易度の高い手術になります。そして何よりも手術で完治することが重要ですが、胸腔鏡手術＋縮小手術を用いた2cm未満の肺がんへの治療成績は、5年生存率91％となっています。しかし、この縮小手術の適応は、初期の肺がん（2cm未満）に限られるため、早期発見が重要となります。当院では胸腔鏡手術と縮小手術を組み合わせ、肺の機能をできるだけ温存する手術に取り組んでいます。

肺の機能を温存する縮小手術

肺葉全体を切除するのではなく、肺の切除量を縮小する部分切除（肺葉切除の10～30％程度の切除）や区域切除（肺葉切除の20～50％程度の切除）の縮小手術

今までの肺の手術

これまでの肺がん手術は、がんがある肺葉と呼ばれる部位を大きく切除するのが標準治療でした。

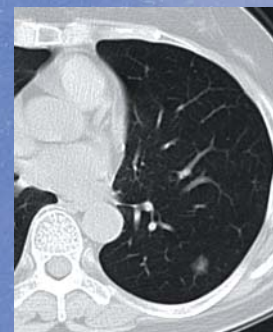


胸腔鏡手術（VATS）を用いた低侵襲治療



ハイブリッド手術

胸のCT検査が簡単にできるようになり、肺がんも早期に発見できるようになりました。一方で直径10mm前後の影が見つかることも増えてきました。このような影も、肺がんが疑われる場合には診断と治療を兼ねて手術が必要になることがあります。しかし、CT検査で淡い小さな影だけが写し出されているがんは、胸腔鏡では見えず手を入れて触ってもわからないことがあります。そのような症例では、手術中にCT撮影のできる手術室「ハイブリッド手術室」にて手術を行います。ハイブリッド手術室のCTで肺がんの位置を確認しながら手術を進める「ハイブリッド手術」は、小さな肺がんも手術中にCTという「眼」を使って見逃さず正確に切除できます。





呼吸器外科
副部長
岡 壮一

- ・日本外科学会 専門医
- ・日本呼吸器外科学会 専門医 評議員
- ・日本がん治療認定医療機構 がん治療認定医
- ・日本胸部外科学会
- ・日本呼吸器内視鏡学会
- ・日本肺癌学会
- ・産業医ディプロマ
- ・医学博士

呼吸器外科

Thoracic Surgery



呼吸器外科 部長
大崎 敏弘

- | | |
|---------------------|------------|
| ・日本外科学会 専門医 指導医 | ・日本臨床外科学会 |
| ・日本呼吸器外科学会 指導医 | ・日本内視鏡外科学会 |
| ・日本胸部外科学会 指導医 | ・日本肺癌学会 |
| ・日本呼吸器内視鏡学会 専門医 指導医 | ・日本癌学会 |
| ・呼吸器外科専門医合同委員会 | ・日本癌治療学会 |
| 呼吸器外科専門医 | ・日本乳癌学会 |
| ・日本気管食道学会 専門医 | ・医学博士 |



呼吸器外科
田中 完治

- ・日本外科学会
- ・日本胸部外科学会
- ・日本呼吸器外科学会

肺手術

186件

(2020年実績)

呼吸器外科手術症例数は、103例、165例、186例と年々増加の一途をたどり、
そのうち肺がん手術数は年間99例に増加しています。





ダビンチ肺がん手術 2021年導入を目指す。

当院では2020年9月に最新の手術支援ロボット「ダビンチXi（da Vinci Xi）」を導入しました。すでに前立腺や消化器がん領域で稼働しており、肺がんに対する手術も2021年の導入を目指しています。ダビンチは、多関節を持つロボットアームと鮮明な3次元画像を有した最先端の手術支援システムで、例えるなら今までの胸腔鏡手術は「さし簗」を用いて、その先にある肺や腫瘍を切除していたのに対し、ダビンチは外科医の「手」が入っているような感覚で手術を行うことができます。狭いスペースで手術器具を自由に動かせるため、正確な手術が可能となります。